

## 2025年度若手研究者共同研究プロジェクト実施報告書

法政大学総長 殿

以下のとおり研究実施報告書を提出します。

基 本 情 報	研究課題名：動作者の主観的感觉を通じた動作精度の般化可能性の検討
	研究代表者氏名：菅谷 亮介
	【在籍者】 研究科・専攻・学年：スポーツ健康学研究科・スポーツ健康学専攻・博士後期課程3年 【修了者】 所属・職種：
	指導教員（所属・職・氏名）：法政大学文学部心理学科・准教授・林 容市 （※在籍者のみ記入）
	共同研究者（所属・職・氏名）： （※指導教員と同人の場合は記入不要）
	その他 研究分担者：
研究期間： 2025 年度 ～ 2026 年度（※研究終了年度を記載）	
年 間 の 研 究 実 施 概 要	<p>※研究計画の進捗状況を中心に今年度の研究実施状況を記載してください。</p> <p>今年度（2025年度）は、当初の予定を一部変更し、研究課題2を実施した。本プロジェクトは2つの研究課題から構成されており、各年度で1つの研究課題を実施予定であった。今年度（2025年度）は、そのうちの1つ（研究課題2）を実施した。そのため、プロジェクト自体に遅れや滞りは生じていない。しかし一方で、申請書に記載した2つの研究課題では、論理の飛躍や補いきれない知見が得られると判断し、研究内容を一部変更した。具体的には、申請書において研究課題1としていた研究を研究課題2とし、申請書において研究課題2として提示していた研究は廃止した。代替案として、より基礎的な知見が得られると想定された研究内容を新たに研究課題1として設定した（2026年度実施予定）。</p> <p>今年度は主に研究課題2に関連する研究活動を行い、関連学会においても評価を得た。2025年度5月から9月に研究課題2の実験を実施し、2025年11月にはデータの取りまとめを行った。その研究成果を2026年2月に開催された第25回日本体育測定評価学会（東北学院大学）において報告し、大会の「優秀発表」を受賞した。関連する学会において、研究成果について一定の成果をいただけたことは、本プロジェクトの進行において有意義な結果であったと考えている。</p> <p>研究課題2においては、本研究プロジェクト全体のテーマである「動作精度の般化」について、その適用範囲を検討した。この課題においては、「努力感覚」という動作者の主観的感觉に着目し、その感覚が動作に拠らず共通のスケールとして機能することを実証した。実際に、特定の動作（握力）で学習した学習の効果は、膝伸展力や跳躍高などその他の動作の精度にも影響を及ぼすことが示された。しかし、動作が異なることで、学習効果が及ぶ範囲が限定化される可能性があり、努力感覚が単に動作に共通のスケールとして機能するわけではなく、文脈依存的に変化することも示唆された。これらの知見は、努力感覚を用いた「動作精度の般化」の適用範囲を示すうえで重要な示唆を与えると想定している。</p>

成果発表（学会・論文・研究会等）		
学会・論文・研究会等の別	タイトル	発行または発表年月
学会発表 （第25回日本体育測定評価学会）	努力感覚を基準とした動作精度の般化可能性の検討	2026年2月28日
その他（アピールすることがあればご記入ください。） 第25回日本体育測定評価学会「優秀発表」受賞		

研  
究  
業  
績